



発行所 三重県立美術館新聞社 〒514-0007 津市大谷町11番地 TEL (059)227-2100 (大代表)



きよつねの展示(てんじ) 異国にて・画家のまなざし 身辺の発見・日常の冒険 空想・憧憬 未知の世界へ

1室 2室 3室 4室+県民ギャラリー



美術館抄(びじゅつかんしょう) 夏休(なつやす)みがちかづいてくると友(とも)だちの顔(かお)が生(い)き生(い)き生(い)きしてくる。 永遠(えいえん)につづくかにみえる40日間(にちかん)、あつと

なんで異国にいかかなあかんの?

「きつねにまた疑問生じる」

(きつね) どうもこうもないわ。 これまで何人(なんにん)の画家(がが)が外国(がいこく)に... (うさぎ) いまから80年(ねん)ぐらいまは、パリだけで300人(にん)ぐらい日本人(にほんじん)の画家(がが)がおつたらしいな。 (きつね) それでな、なんで... (うさぎ) みんな行(い)ったって... (うさぎ) みんな行(い)ったって... (うさぎ) みんな行(い)ったって...

佐伯祐三(さえきゆうぞう) 《サンタンヌ教会(きようかい)》 1928年の作(さく) (きつね) あっ! 神田(かんだ)のニコライ堂(どう)! (うさぎ) どっちがボケ役(やく)で、どっちがツッコミかわからんようになってきたわ。しかたない



現場(げんば)に出(で)てた... (きつね) ちょっと刑事(けいじ)みたいでかつこええな! (うさぎ) ちがうでえー! 気持(きもち)ちは生粋(きんすい)の野次馬(やじうま)やでえー! (うさぎ) 佐伯(さえき)さんは、パリの街(まち)をぐるぐるまわって、ええと思(おも)った場所(ばしょ)は片(かた)端(は)かたつぽしから描(か)いたひとや。日本(にほん)で描(か)いた絵(え)もいくつもあるけど、パリで描(か)いた風景(ふうけい)のほうが断然(だんぜん)ええわ。なんでわかるか? (きつね) よく知(し)ってるな、うさぎ。おとなのちしきも超(こ)えとるわ。 ええと... そうやなあ、油絵具(あぶらえのぐ)をつかうひとの場合(ばあい)、パリの風景(ふうけい)のほうが描(か)くの、



かんたんなんかもしれやんなあ。ほら、なんかレンガとかの建物(たてもの)の重(おも)たい感(かん)がよくでとるやんか。 (うさぎ) けっこうええこたえや。 ほめたる。でもな、それだけやなさそうやで。見(み)てみ、絵(え)の感(かん)じ。空気(くうき)がはりつめとるやろ。佐伯(さえき)さんは、もうすぐ自分(じぶん)が死(し)んでしまうことを予感(よかん)してたんかもしれへんけど、それよりもなによりも自分(じぶん)が生(う)まれ育(そだ)った日本(にほん)から遠(とほ)く離(はな)れて、ぜんぜんちがう風景(ふうけい)や世界(せかい)に飛(と)び込(こ)んだからこんな絵(え)が描(か)けたと思(おも)う。うわ。つまりやなあ、転校(てんこう)したときの、あの、なんともいえへん緊張感(きんちやうかん)に似(に)てるわけや。 (きつね) そんなこといわれても転校(てんこう)したことないからわからんわ。あつ、そうか、スイカ食(た)べたときの、あの新鮮(しんせん)な感(かん)じやな!



美術館抄(びじゅつかんしょう) 夏休(なつやす)みがちかづいてくると友(とも)だちの顔(かお)が生(い)き生(い)き生(い)きしてくる。 永遠(えいえん)につづくかにみえる40日間(にちかん)、あつと